

アニマルランド NEWS

かのう
和の森わんぱーくこうちアニマルランド
№108 Oct 2025



- ・ 夏の企画展「身近なカニの仲間たち」
- ・ ニホンカモシカ「アリー」誕生!!
- ・ キンショウジョウインコ的人工育すう奮闘記
- ・ 新人獣医師からのごあいさつ

4月から9月

- 4/6 わんぱーくこうちまつりでクイズ大会開催
ジャガー「ユウキ」「アイ」1歳誕生日会開催
- 4/14 スマトラトラ「アバディ」一般公開開始
- 4/16 高病原性鳥インフルエンザ対策解除
- 4/21 ホンドタヌキ「ぶちぼん」死亡
- 4/25 Amazonほしい物リスト第2弾開始
- 4/29 カブトムシの飼い方教室開催
- 6/22 ニホンカモシカ「アリー」誕生
ジャガー「ユウキ」お別れ会開催
- 6/29 スマトラトラ「カリ」死亡
ジャガー「ユウキ」東山動物園へ移動
- 7/13 カブトムシすもう大会開催
- 7/20 移動水族館開催
- 7/24～9/2 夏の企画展「身近なカニの仲間たち」開催
- 7/29 サマースクール開催
- 8/25 キエリボウシインコ来園
- 9/4～ 動物紹介「知ってる?! タヌキ」開始
- 9/15 敬老イベント開催
- 9/21 移動動物園開催

ジャガー「ユウキ」「アイ」
1歳誕生日会



2024年4月6日に誕生した2頭が
1歳を迎えました。

スマトラトラ「アバディ」



恩賜上野動物園から来園し、
一般公開を開始しました。

カブトムシの飼い方教室



第26回カブトムシ飼い方教室を行いました。
多くの方が参加してくれました。

ニホンカモシカ
「アリー」誕生



当園で6年ぶりにニホンカモシカの
赤ちゃんが誕生しました。

ジャガー「ユウキ」移動



名古屋市東山動物園へ移動しました。

のできごと

カブトムシすもう大会



移動水族館



暑い中でしたが、たくさんの方が参加し、大いに盛り上がりました。

足摺海洋館「SATOUMI」との交流イベントを行いました。

夏の企画展



「身近なカニの仲間たち」と題して、生体展示やパネル・写真での解説をしました。

サマースクール



飼育体験や昆虫採集・標本作りを行い、みんな楽しんでくれました。

動物紹介



敬老イベント



移動動物園



タヌキの特徴や、当園飼育個体の紹介をしました。

ジャガー「ルモ」とチンパンジー「タロー」に敬老のお祝いをしました。

足摺海洋館「SATOUMI」に出張し、動物のふれあいを行いました。



夏の企画展「身近なカニの仲間たち」

今年度の夏の企画展は7月24日（木）から9月2日（火）までの間、アニマルギャラリー特別展示場において「身近なカニの仲間たち」を開催しました。皆さんも夏のキャンプなどで、河原や砂浜、磯の潮だまりで遊んだ時に、カニを見つけた^{つか}り捕ま^{つか}えたりしたことがあるのではないのでしょうか。今回の企画展では、このように私たちの近くで見られるカニを集めて生きた状態で展示することを計画^{たんすい}しました。12ブースある展示水槽を埋めるためのカニ採集は5月29日から開始しました。最初は、淡水・汽水^{きすい}域に生息するベンケイガニと海水域に生息するヒライソガニで飼育経験を積むことから始め、その後に種類数を増やしていきました。ベンケイガニの仲間3種（アカテガニ・ベンケイガニ・クロベンケイガニ）は、わんぱくこうちの園内に生息していることから職員が見つけた時に捕獲^{ほかく}してもらいました。また、モクズガニ・ガザミ・ハマガニ・アシハラガニなども、積極的な職員が生息環境条件を考慮して探しに行き採集^{こうりよ}してきました。さらに、磯^{いそ}に生息するカニは、高知大学理工学部生物科学科の臨海実習で学生の方々が採集した多種のカニを、担当教授の斉藤知己先生から譲^{ゆず}っていただき多くの展示個体を確保することができました。青いサワガニは、谷岡仁氏から調査の採集個体をいただくとともに最新の知見も紹介していただきました。また、7月20日に移動水族館で来園した足摺海洋館からはスベスベマンジュウガニをお借りすることができました。このように多くの方々のご協力のもと様々なカニを展示することができました。本当にありがとうございました。

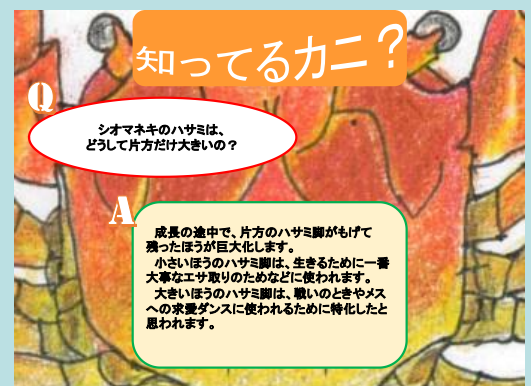
本企画展で展示したカニは、溪流などに生息するサワガニの赤色個体と青色個体、河口から河川に生息するモクズガニ、汽水域から河川に生息するアカテガニ・ベンケイガニ・クロベンケイガニ、汽水域に生息するアシハラガニ・ハマガニ・カクベンケイガニ、磯^{いそ}に生息するヒライソガニ・イワガニ・ケブカガニ・オウギガニ・イボイワオウギガニ・スベスベマンジュウガニの14種類でした。それぞれの展示水槽の背景には実際に生息している場所の写真を使い、それに合うような石や流木、コケなども配して展示にカニとの一体感がうまれるように工夫しました。また、干潟^{ひがた}に生息しているチゴガニやシオマネキの仲間は、泥の中の有機物を摂取^{せつしゆ}していることから、エサの供給が難しいと考える飼育せず写真展示としました。



企画展概観



展示水槽（サワガニ）



Q&A



展示ブースでは、それぞれのカニの説明ラベルだけでなく、「カニの体のしくみ」「カニのせいちょう」「カニの分類」「高知県のカニ全種一覧」「赤いサワガニと青いサワガニ」といった大きめの解説パネルを掲示しました。また、「知ってるカニ？」と題したQ&A形式のプレート6枚も配置して、カニについての興味と知識を深めるための工夫をしました。これらの掲示物には当園井上獣医師の力作イラストをふんだんに配することによって、わかりやすく魅力的な展示が出来上がりました。

サワガニには、色彩のバリエーションがあり青系統・赤系統・暗色系統に大きく分けられるとされています。このことに着目して、山岡遵氏と古谷八重子氏が主となって四国・九州・紀伊半島などで精力的に調査を行ない、高知県においては吉野川流域や物部川以東では青系統が多く、国分川以西では赤系統が多いということが解明されました。そして、その調査結果は「サワガニ“青”の謎」という本にまとめられています。今回の展示解説に、このデータを引用することを快諾していただいたお二人に心よりお礼申し上げます。

今回の企画展では、私たちの近くで見られるカニを集めて展示しましたが、環境の変化や開発などの影響で生息数が減少している種類もあります。2002年に発行された「高知県レッドデータブック〔動物編〕」において、今回展示したすべてのカニは絶滅危惧種に含まれていませんでした。しかし、その16年後の2018年に発行された「高知県レッドデータブック2018動物編」においては、展示したカニの3種類（ハマガニ・アカテガニ・ベンケイガニ）が絶滅危惧種にリストアップされています。ハマガニは、県内の汽水域のヨシ群落が発達した場所に散在して生息していますが、何処も狭く大きい個体群は少ないとされています。さらに、開発や洪水によってヨシ群落が衰退し個体数が減少したことから絶滅危惧Ⅱ類（Ⅶ）に指定されました。アカテガニとベンケイガニは、県内全域の河川河口域から中流域までの土手や山林内などに生息していますが、護岸工事や法面工事によって生息環境が減少したことから準絶滅危惧（Ⅱ）に指定されました。実際、わんぱくこうち内でもクロベンケイガニは簡単に捕獲できるのですが、アカテガニとベンケイガニは、なかなか見つけることができませんでした。また、シオマネキは生息域が限定されていて生息数も少ないことから「高知県指定希少野生動植物」に指定され、県内全域において捕獲等は知事の許可が必要となっています。

夏期間だけの短い企画展でしたが、この展示をとおしてカニの多様性や魅力を感じていただけたのではないのでしょうか。さらに、それぞれのカニの生息地の保全など自然環境全体にも関心を持っていただけたら幸いです。とりわけ暑かったこの夏、展示を見に足を運んでくださいました来園者の皆様、ありがとうございました。（渡部 孝）



スベスベマンジュウガニ



サワガニ(青)



ハマガニ



ベンケイガニ



ニホンカモシカ「アリー」誕生



2025年6月22日、ニホンカモシカの「アリー」が誕生しました。体重は2625gの元気なオスでした。生まれてから少しすると、自力で立ち上がり、乳を飲む様子も確認できました。その様子を見て、ホッとしたのが今も思い出されます。

当園で飼育しているニホンカモシカはすべて四国産の個体です。ニホンカモシカは本州、四国、九州に生息する日本固有種です。四国産と本州産では形態に違いがあり、四国産は本州産に比べて角が後方により強く湾曲しています。眼の虹彩の色の違いもあり、本州産はオレンジ色で明るいのに対し、四国産は濃い茶色をしています。体の大きさが本州産は40kgを超えることも珍しくありませんが、四国産は30kgを超えることがほとんどありません。国内の動物園で四国産の個体を飼育しているのは9園館15頭（2024年度ニホンカモシカ国内血統登録台帳参照）と非常に少ないです。

今回生まれたアリーは、アニマルランドで6年ぶりに誕生したニホンカモシカの赤ちゃんです。父親はヒカリ、母親はアヤです。アヤは高知県内で保護された個体で、アニマルランドに来てから今回で6回目の出産となります。昨年、おとしと出産がありましたが、残念ながら死産だった為、今回の出産では何とか無事に赤ちゃんが生まれてきてくれるように毎日様子を観察し、準備をしてきました。

私は2024年の4月からニホンカモシカを担当し、ニホンカモシカのペアリング（同居）が今回初めての経験でした。最初は分からないことだらけでしたが、ヒカリとアヤの状態を見ながら、日々繁殖に向けて取り組みました。ヒカリとアヤのペアリングは順調に進み、アヤのお腹が少しずつ大きくなっていく様子が確認できました。2025年2月下旬頃から胎動を確認することができ、アヤのお腹に新たな命が宿っていることを確信しました。出産予定日が近づくにつれて、私もソワソワするような気持ちでした。6月22日の朝、アヤの様子を確認しに行くと、陣痛の兆候が見られ、いつ生まれてもおかしくない状態でした。その日は展示を中止し、寝室でアヤの様子を確認し、夕方寝室で元気な赤ちゃんの姿を見ることができました。アリーは生まれてから何事もなく、元気にすくすくと育っています。その姿を見ると大変嬉しく思います。

アリーは展示場で母親のアヤと過ごしています。展示場では元気に走る姿やアヤの後を付いて歩いている姿、エサを食べる姿などが見られます。当園では今回生まれたアリーを含め、4頭のニホンカモシカを飼育しています。アニマルランド内の一番端（西側）のカモシカ村へぜひお越しください。

（山本 将充）



6月23日（誕生翌日）



7月5日（授乳）



8月5日



9月6日

キンショウジョウインコの人育すう奮闘記

私は当園で長くインコの飼育担当をしています。その中で、キンショウジョウインコという、赤色と緑色がきれいな体長約40cmくらいの鳥がいます。

この種は長らくオス1羽でしたが、2017年に若いメスが来てから、数年にわたり有精卵を産むようになりました。しかし毎回親鳥は卵を床などに産み捨て、抱く様子もなかったため、人工的に孵化させることにしました。そこから私の飼育員としてのたたかいは始まりました。

2019年にはじめての人育すう（人の手で鳥のヒナを育てること）を行いました。数年間は失敗の連続でした。インコのヒナは生まれたては10g以下ととても小さく、当時のやり方では体重があまり伸びず2週間以上生きた個体はいませんでした。おそらく飼育環境やエサに問題があると考えられましたが、それが何か分らなかったのです。そしてまた、2025年12月にたった一つの有精卵が手に入りました。今までの経験をしばらくだし、この個体にかかけよう！と思って取り組みました。一番気をつけたことは、ヒナにとって快適な温度と自然の子育てを参考にすることです。すると国内で飼育下繁殖に成功している方の1枚の写真が手に入りました。親鳥の横で立つヒナののどにははちきれんばかりのエサが入っていたのです。エサの内容は特に問題がなく、食滞（腸の動きが滞ること）に注意しすぎて、エサの頻度が少なかったと気づきました。そこで思い切って毎日たくさんエサを与えてみることにしました。すると、体重がどんどん増えだし、ようやく無事に育てる方法が分かった気がしました。大晦日に生まれたのでオミ（メス）という名前です。今は元気いっぱい、少しわがままなところもかわいいと思う親バカぶりです。まだ展示場デビューはしていませんが、この人育すうを通して、自然の子育てに学ぶことの大切さを思い知りました。そしてオミの成長途中での変化に一喜一憂して、貴重な経験を得られたと思います。これからも元気でいてね！

（獣医師兼飼育員 井上 春奈）



新人獣医師からのごあいさつ

2025年4月より、和の森わんぱくこうちアニマルランドで勤務しております、宇賀神と申します。生息域内保全・生息域外保全・普及啓発など、野生動物の保全に幅広く関わりたく、動物園獣医師を志しました。高知は採用試験で初めて訪れた地であり、新生活に加えて、土佐弁や地名などわからないことばかりで不安でした。しかし、フィールドワークが好きなこともあり、海・川・山と自然が近くにある生活を楽しんでいます。

現在は、グラントシマウマ・フラミンゴ・マントヒヒ・アビシニアコロブス・キジ舎を担当しています。今まで動物を飼ったことがない私にとっては、動物との距離感や動物の状態を把握することがとても難しかったです。最初の頃はニホンキジに攻撃されたり、マントヒヒに警戒されたり、ヒオドシジュケイに糞を落とされたりと悪戦苦闘していました。

今後は、動物のことをより理解できるよう経験と勉強を重ねていくとともに、四国の野生動物の保全に少しずつ関わられるよう日々精進してまいります。

（宇賀神 美紀）





少しずつ涼しくなってきた9月下旬。
ふれあい広場前でキャッチ☆
左から

河口 いっせん 一扇くん(2)
心実さん(4)

愛媛県からのご来園です。
初めてアニマルランドに来てくれて
一扇くんはライオン、心実さんは
サーバルがお気に入り♪
お父さんとお母さんは、「無料なの
に多くの動物が見られて、園内もき
れい」とコメントをいただきました。

10月から3月のイベントとお知らせ

開催中～12月16日(火)
動物紹介

2月11日(水)
祝日のため開園(翌日2月12日(木)は休園)

12月18日(木)～2月3日(火)
えと展開催

3月25日(水)
臨時開園

2月5日(木)～
動物紹介

3月29日(日)～4月5日(日)
わんぱくこうちまつり
(チューリップ展示期間)

詳しい日程等は、決まり次第
ホームページ、Xにてお知らせ
します。

※年末年始の休園
12月28日～1月1日

中止や延期がある場合があります。
ホームページ、X、園内掲示などで
お知らせします。

日・祝 14:30～
ワンポイントガイド
動物の解説を飼育スタッフがおこないます

ふれあい広場開放時間

- ・10:30～12:00
- ・13:00～14:30

※ 7月～9月は、動物が暑さで弱ってしまうため
お休みしています

動物たちのエサの時間

キツネザル	10:30～
リクガメ	10:30～
チンパンジー	13:30～
フラミンゴ	14:00～
オオサンショウウオ	毎週土曜日 15:15～
アフリカコガタワニ	毎週日曜日 15:15～

表紙「ニホンカモシカのアリー」

2025年10月1日発行
発行・和の森わんぱくこうちアニマルランド
〒781-8010 高知市棧橋通6-9-1
TEL088-832-0189 FAX088-834-0929
Eメール kc-171204@city.kochi.lg.jp

編集 山本将充

<http://www.city.kochi.kochi.jp/deeps/17/1712/animal/>
アニマルランドニュース 4,10月の年2回発行
ホームページでも配信中

わんぱくこうちアニマルランド

検索